

[課程一2]

審査の結果の要旨

氏名 落合 亮太

本研究では、先天性心疾患における望ましい成育医療体制の在り方を検討するため、成人先天性心疾患患者とその親、成人先天性心疾患診療に携わる医師の三者を対象に、質的面接調査を行い、下記の結果を得た。

成人先天性心疾患患者が成育医療に対して抱く要望として、〈小児医療から成人医療への移行の円滑化〉〈子どもの頃からの本人への説明〉〈一人で受診する意思の確認〉〈精神面をサポートする体制の充実〉〈緊急時に対応できるシステム作り〉〈障害者手帳に関する情報提供〉という6カテゴリが抽出された。

成人先天性心疾患患者の親が成育医療に対して抱く要望として、〈小児科医との関係の維持〉〈子どもが希望を失わない説明〉〈一人で受診する意思の確認〉〈親子が共倒れにならないための精神的ケア〉という4カテゴリが抽出された。

成人先天性心疾患診療に携わる医師が認識する成育医療体制の問題と今後の課題として、「1. 成人先天性心疾患を誰が診ていくか」「2. 医療の集約化」「3. 小児病院の在り方」「4. 心理・社会的問題」という4テーマが抽出された。

さらに、医師の職種別に分析を行った結果、小児科医のデータからは『成人先天性心疾患を診るのは小児科と循環器内科と内科』『循環器内科に興味を持ってもらう』『多くの患者を集約化施設に集約化する』『小児病院と総合病院を併設する』『移行外来を作る』という5つのクラスタが抽出された。

同様に、心臓血管外科医のデータからは『成人先天性心疾患を診るのは小児科と循環器内科』『循環器内科に興味を持ってもらう』『今後専門外来に集約化する必要がある』『総合病院が集約化施設になり診療科を作るべき』『成人先天性心疾患の手術は小児心臓血管外科と心臓血管外科が一緒に行う』という5つのクラスタが抽出された。

循環器科医のデータからは『成人先天性心疾患は小児科と循環器内科が診る』

『集約化施設と一般診療の連携体制を作る』『循環器内科に興味を持ってもらうために研修が必要』『専門医を作ってほしい』『システムをしっかり作って宣伝してほしい』という5つのクラスターが抽出された。

以上、本論文は、成人先天性心疾患患者とその親、成人先天性心疾患診療に携わる医師の三者の視点から、今後の本邦における先天性心疾患における成育医療体制の在り方を検討した。本論文の結果は、今後の医療体制の構築に

重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。